

報告

(1) 協議会委員及び幹事の変更について

- ・協議会委員 山本俊一（見附市助役）

（協議会規約第4条（2）の規定によるもの）

資料1 長岡地域任意合併協議会委員名簿

・・・・・・・・・・ P 2

- ・幹事 山本俊一（見附市助役）

（幹事会規程第3条（1）の規定によるもの）

資料2 長岡地域任意合併協議会幹事会名簿

・・・・・・・・・・ P 3

(2) 先進地視察について

資料3 先進地視察報告

・・・・・・・・・・ P 4 ~ 6

(3) 第1回新市将来構想策定小委員会について

資料4 新市将来構想策定小委員会名簿

・・・・・・・・・・ P 7

資料1 長岡地域任意合併協議会委員名簿

平成15年3月13日現在

区分	役職名	氏名	備考
行政	長岡市長	森 民 夫	
	見附市長	久 住 時 男	
	栃尾市長	馬 場 潤一郎	
	中之島町長	樋 山 桑 男	
	越路町長	大 野 勉	
	三島町長	遠 藤 鐵四郎	
	山古志村長	長 島 忠 美	
	小国町長	大 橋 義 治	
	長岡市助役	二 澤 和 夫	
	見附市助役	山 本 俊 一	2月19日就任
	栃尾市総務課長	外 山 康 男	
	中之島町助役	佐々木 保 男	
	越路町助役	熊 倉 幸 男	
	三島町助役	米 持 昭 次	
	山古志村助役	坂 牧 宇一郎	
小国町助役	長谷川 孝		
議会	長岡市議会議長	矢 野 一 夫	
	長岡市議会 市町村合併調査研究委員会委員長	大 地 正 幸	
	見附市議会議長	伴 内 勝 栄	
	見附市議会 市町村合併調査特別委員会委員長	八 木 庄 英	
	栃尾市議会議長	鈴 木 正 一	
	栃尾市議会 市町村合併調査研究会会長	西 川 洋 吉	
	中之島町議会議長	今 泉 實	
	中之島町議会 市町村合併調査特別委員会委員長	五十嵐 亮 一	
	越路町議会議長	石 坂 敏 雄	
	越路町議会 地方分権推進等調査特別委員会委員長	石 黒 貞 夫	
	三島町議会議長	野 島 六 司	
	三島町議会 市町村合併調査特別委員会委員長	大 桃 健 三	
	山古志村議会議長	坂 牧 正 憲	
	山古志村議会 合併問題研究特別委員会委員長	高 野 哲 四	
小国町議会議長	樋 口 章 一		
小国町議会 地方分権に関する特別委員会委員長	野 田 幹 男		
住民代表	長岡市	長岡商工会議所会頭	田 村 巖
	長岡市	企業教育ファシリテーター・産業カウンセラー	朝 日 由 香
	見附市	見附青年会議所 直前理事長	村 上 雅 紀
	見附市	見附市情報公開審議委員	若 杉 リ ツ
	栃尾市	保育園園長(芳香稚草園)	佐 藤 織 江
	栃尾市	栃尾市観光協会理事	北 村 公
	中之島町	中之島町土地改良区理事長	池 田 守 明
	中之島町	中之島町公民館長	高 森 精 二
	越路町	越路町民生委員児童委員	鍵 水 義 慎
	越路町	会社役員	小 林 民 雄
	三島町	三島町まちづくりビジョン策定委員会 会長	大 矢 治 雄
	三島町	三島町まちづくりビジョン策定委員会 副会長	小 池 進
	山古志村	山古志村夢づくり村民会議代表	高 野 徳 義
	山古志村	錦鯉生産組合代表	酒 井 利 幸
小国町	小国町商工会会長	平 野 保 雄	
小国町	小国町情報公開・個人情報保護審査会委員	池 島 寛	
学識経験者	新潟県総合政策部市町村合併支援課長	中 澤 清	
	長岡造形大学 理事長・学長	豊 口 協	
	ホクギン経済研究所 所長	鈴 木 隆 三	

資料2 長岡地域任意合併協議会幹事会名簿

平成15年3月13日現在

市町村名	役職名	氏名	備考
長岡市	助役	二澤和夫	
見附市	助役	山本俊一	2月19日就任
栃尾市	総務課長	外山康男	
中之島町	助役	佐々木保男	
越路町	助役	熊倉幸男	
三島町	助役	米持昭次	
山古志村	助役	坂牧宇一郎	
小国町	助役	長谷川孝	
長岡市	企画部長	北谷孝和	
見附市	企画調整課長	山本俊一	兼務
栃尾市	企画財政課長	稲田悟	
中之島町	企画課長	入沢与吉	
越路町	総務課長	深井亮一	
三島町	総務課長	難波正	
山古志村	総務課長	若槻敬	
小国町	総務課長	山岸宏	

資料3 先進地視察報告

- 1 日時 平成15年2月26日(水) 午後1時30分から午後4時15分まで
- 2 視察先 前橋広域市町村任意合併協議会(構成;前橋市、大胡町、宮城村、粕川村)
(協議会事務局は前橋市役所内)
- 3 会場 前橋市役所 11階 北会議室
- 4 視察参加者 協議会委員 21名

市町村名	氏名	
長岡市	矢野 一夫	大地 正幸
見附市	八木 庄英	村上 雅紀
	若杉 リツ	
栃尾市	佐藤 織江	北村 公
中之島町	今泉 實	池田 守明
	高森 精二	
越路町	熊倉 幸男	小林 民雄
三島町	米持 昭次	大矢 治雄
	小池 進	
山古志村	坂牧 宇一郎	高野 哲四
	高野 徳義	酒井 利幸
小国町	平野 保雄	池島 寛

市町村合併担当職員 2名

協議会事務局員 6名

- 5 視察内容 あいさつ
 - ・前橋広域側 前橋広域市町村任意合併協議会 都木幹事長
 - ・長岡地域側 長岡地域任意合併協議会 矢野委員
(長岡市議会議長)

概要説明 ・前橋広域市町村任意合併協議会 石田事務局次長

質疑応答

お礼のあいさつ

 - ・長岡地域任意合併協議会 熊倉委員
(幹事会副幹事長、越路町助役)

6 前橋広域市町村任意合併協議会について(概要説明の主な内容)

前橋広域市町村圏振興整備組合

(前橋市、富士見村、大胡町、宮城村、粕川村の5市町村)

- ・組合では少年自然の家、臨海学校、交通災害共済、常備消防、介護認定審査会などを実施済み。また5市町村間では保育園児の相互受け入れなども実施している。
- ・平成13年夏、寺泊町で行われた臨海学校の行政視察に際し、5市町村の首長が集まり、市町村合併について意見交換を行った。その後の会議で住民への情報提供を進め合併議論を深めるためには、5市町村が個別に取り

組むよりも、情報を共有し、議会、住民も参画する中で、共同して協議検討していく場である任意合併協議会を設置していくことが必要であるとの認識の一致を見た。

前橋広域市町村任意合併協議会

- ・平成14年4月19日 第1回協議会が行われた。
前橋市、大胡町、宮城村の3市町村で設置。
人口が30万人を超えて中核市への移行を目指す。
(平成12年国勢調査人口；前橋市284,156人、大胡町16,463人、宮城村8,336人)
- ・平成14年8月粕川村が加入し、4市町村となった。
(平成12年国勢調査人口；粕川村11,513人)
4市町村の合計人口320,468人、4市町村の合計面積：241.22km²
- ・協議会は4月から12月まで、先進地視察での協議会も含め8回行われた。
粕川村が8月に加入したため、実質的な協議は4ヶ月間であった。
- ・大胡町と粕川村では任意協議会の結果を踏まえて、アンケートを行った。
結果 大胡町 賛成75.25% 粕川村 賛成76.59%
- ・平成15年3月に法定協議会の設置の議会議決を経て、4月には設置したいというスケジュールになっている。
- ・現在法定協議会への移行期間であり、事務局では、4市町村の条例等の突合作業を行う予定になっている。
- ・協議会に参加していない富士見村(平成12年国勢調査人口；21,273人)では、平成15年1月に村長のリコールが成立し、3月選挙の予定。結果によっては協議会へ加入する可能性もある。

前橋広域市町村任意合併協議会の協議結果について

- ・「合併の方式」などの24項目についての協議結果を1項目ずつ説明した。
 - 「合併の方式」 3町村の全部を前橋市に編入する。
 - 「合併の期日」 平成17年3月31日までを目途とする。
 - 「議会議員の・・・取扱い」 法定協議会で協議して定める。
 - 「地方税の取扱い」 前橋市の制度に統一(不均一課税はしない)する。
個人住民税均等割額に500円の差があり、町村の負担が増えるが、前橋市の制度を適用することで負担よりもサービスが増大するという考え方があり不均一課税はしない。
 - 「町名、字名の取扱い」 3町村の意向を尊重するが、前橋市の現行の町名と紛らわしくないようにする。
 - 「支所の取扱い」 3町村の役場は、支所とする。5年を目途に段階的に業務の内容見直しを行う。
 - 「地域審議会の取扱い」 3町村のそれぞれの区域に地域審議会を設置する。
- ・新市建設計画では、新たに新市として計画を作るのではなく、各市町村の総合計画での事業が組み込まれた形の計画となっている。また、まだ任意協議会の段階なので、この計画については、県との協議は行っていない。

7 委員からの主な質問とその回答

住民への説明と意向調査の時期、手法はどのように考えていますか。

回答 協議会では4回協議会だよりを発行しており、また協議会のホームページの開設や各市町村の窓口に協議会資料を配置するなどして情報提供に努めてきました。市町村ごとの取り組みでは、広報誌による特集記事や協議会終了後には宮城村と粕川村では住民等を対象にした説明会を実施し、また、大胡町と粕川村では住民アンケートを実施しております。前橋市では要望があれば出前講座を開催する用意があります。

支所機能は、どういう範囲で事務を行う予定ですか。

回答 窓口業務になるでしょうが、細かい支所機能は今後（法定協議会で）決めていくこととなります。事務局では現在前橋市にある支所よりも拡大した事務を想定しています。また、旧市町村単位の自治については、合併に関係なく出ていることですから、現在の前橋市の地域も含めて考えていかなければならない問題と考えています。

各町村の独自に取り組んでいる事業はどのように残すのですか。

回答 地域のスクールバスなど、地形や居住環境といった特殊性がある場合に現行を引き継ぐことにしています。人口比では前橋市対3町村が9：1なので、その1を全体に広げると財政の負担が大きいと考えます。ですから前橋市のほかのサービスでカバーできるように協議をしています。個別の制度を残していくことではなく、市町村の実績を踏まえて、新市になった場合の制度を作っていきますということなのです。

出前講座が開かれていないが、住民に関心がないということですか。

（出前講座は、地域住民からの要望によって開催するとしています。）

回答 関心がないとは思っていません。暖かく見守っていてくれていると思っております。昭和29年30年の合併で今のおおよその前橋市ができていますが、旧前橋に住んでいる人は20%くらいで、80%の人は昭和の合併で前橋市民になった人です。赤城山の裾野に5市町村が同じ生活圏で生活しているので、この組合せ（5市町村）で一緒になろうということに対して、否定的な意見はないと思っています。

資料4 新市将来構想策定小委員会委員名簿

	区 分	役 職 名	氏 名
長岡市	行政	長岡市助役	二 澤 和 夫
	住民代表	企業教育ファシリテーター・産業カウンセラー	朝 日 由 香
見附市	行政	見附市助役	山 本 俊 一
	住民代表	見附青年会議所直前理事長	村 上 雅 紀
栃尾市	行政	栃尾市総務課長	外 山 康 男
	住民代表	栃尾市観光協会理事	北 村 公
中之島町	行政	中之島町助役	佐々木 保 男
	住民代表	中之島町土地改良区理事長	池 田 守 明
越路町	行政	越路町助役	熊 倉 幸 男
	議会	越路町議会地方分権推進等調査特別委員会委員長	石 黒 貞 夫
三島町	行政	三島町助役	米 持 昭 次
	住民代表	三島町まちづくりビジョン策定委員会副会長	小 池 進
山古志村	行政	山古志村助役	坂 牧 宇一郎
	住民代表	山古志村夢づくり村民会議代表	高 野 徳 義
小国町	行政	小国町助役	長谷川 孝
	議会	小国町議会地方分権に関する特別委員会委員長	野 田 幹 男
	学識経験者	長岡造形大学理事長・学長	豊 口 協

資料5 新市将来構想策定小委員会正副委員長の選任結果

(1) 委員長 豊口 協 (学識経験者)

(2) 副委員長 二澤 和夫 (長岡市助役)

資料6 新市将来構想の策定にかかる住民参画について

合併した場合のまちづくりを方向づける新市将来構想に、住民の意思を反映するために、下記の手法により住民意見を把握する。

1 住民アンケート調査(事前調査)

- 目的 新市将来構想の策定にあたって、地域の総意ではないが、住民の各属性(性別・年齢・地域)の志向を把握することにより、本調査(地域アンケート)の際の問題点提起とワークショップでの議題を提供する。
- 方法 訪問留置調査(調査員が直接対象者を訪問し、調査を行う。)
- 対象 年齢別(20代、30・40代、50代以上)・男女別・市町村別の各5人ずつ、計240人
 $2(\text{男女別}) \times 3(\text{年齢別}) \times 8(\text{市町村}) \times 5 \text{人} = 240 \text{人}$
- 時期 平成15年3月中旬
- 内容 市町村合併に対する意向、問題点、要望、行政に対する意見など

2 地域アンケート調査(本調査)

- 目的 地域の総意としての住民の意向を把握し、将来構想策定時のデータとして活用する。併せて、新市将来構想に住民意見を反映することを住民にアピールする機会とする。
- 方法 構成市町村の住民から無作為に抽出し、郵送により配布・回収
- 対象 人口規模に応じ、2段階無作為抽出法により、全体で7,000人うち回収可能見込み3,500人(回収率50%として)
- 時期 平成15年4月中旬(事前調査結果集計後)
- 内容 事前調査(住民アンケート)の結果を受けて、地域住民の総意としての市町村合併に対する意向、問題点、要望、行政に対する意見など

3 有識者ヒアリング・アンケート

- 方法 対象者への直接インタビュー形式等
- 対象 地域振興活動等に携わっているオピニオンリーダー等
- 時期 平成15年4月中

1.2.3により求める成果 ⇒ 実現したい将来像・実現可能な将来像

- ・ 現在、地域住民の抱えている満足と不満な点を明確化する。
- ・ 合併後の新市において何を重要と考えるかを明確化する。
- ・ 存在する地域資源の優位性や貴重さに関し、住民の意向を明確化する。

4 まちづくりワークショップ

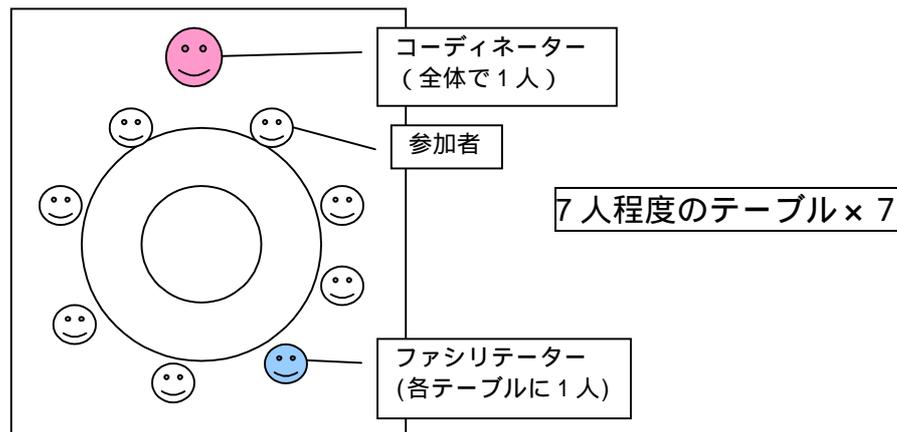
目的 アンケート調査等によって明確となる「実現したい将来像」、「実現可能な将来像」を再検証・確認し、「実現すべき将来像」を検討する。

方法 将来構想策定に関心の高い住民の参加に基づく

全体構成 52人

市町村推薦枠 32人（各市町村4人）

一般公募枠 20人



時期 平成15年4,5月で3回程度開催

第1回ワークショップ 4月17日(木) 19:00~

ワークショップに求める成果 ⇒ 実現すべき将来像

- ・ 新市将来構想につながる将来イメージの創出
- ・ 新市の市民・主体としての意識付け